

第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海に参加して

小嶋 紅葉

日本福祉大学 健康科学部 福祉工学科
建築バリアフリー専修 3 年

1. はじめに

2024 年 8 月 23 日から 25 日までの 3 日間、日本福祉大学東海キャンパスにて第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海が「出会いが生むミライ ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～」をテーマとして開催されました。

演題発表では、「車いす / 姿勢保持」「自立支援」「小児へのアプローチ」「生活空間デザイン」「インクルーシブ教育・教育支援」など様々な視点からの工学的支援技術に関するテーマがありました。

SIG や委員会、大会長セッション、市民公開講座、リハ工学基礎講座、懇親会など多くのイベントが開催されました。

また、福祉機器コンテストや企業展示も同時開催されており、発表やイベントの間も多くの人が展示を見たり説明を聞いたり会場全体が盛り上がっていました。

2. 初めてリハ工学カンファレンスに参加して

5 月に開催されたプレイベントから学生会員となり、今回が初めてのリハ工学カンファレンスへの参加でした。

今回参加して、当事者やメーカー、多様な専門職の方々が参加しており、発表や質疑応答などで様々な目線からの議論がなされているのだと感じました。参加する前は、車いすや自助具、ロボットなどの直接的に支援するものを開発する目線からの発表ばかりだと思っていましたが、車のライトや外出支援についてなど周辺環境の支援技術に関する発表や当事

者による報告など多岐に渡る目線からの発表があり、全てにおいて常に学びのある時間でした。

また、今回は学生アルバイトとしても参加をしており、発表者の一番近くでタイムキーパーなどを務めさせていただきました。私自身もリハ工学カンファレンス後に学会発表を控えており、発表者の近くで見ていたからこそ感じられるリアルな緊張感を体感することができ、自身の発表への学びとすることができました。

3. 車いす好きとして

私は、高校生の頃から車いすの見た目やニーズに合わせて様々なコンセプトで作られている点に魅力を感じ、様々な福祉機器展に足を運んでいましたが、趣味の範囲だったこともあり、あまり周りに車いすについて話することができる人がいませんでした。しかし、今回のリハ工学カンファレンスに参加し、車いすに熱意を注いでいる人に沢山出会うことができました。演題発表の際も、車いす一つとっても、ブレーキのシステムやシーティングについてなど細部について研究している方々のお話を聞くことができ、学術的にも車いすについて学ぶことができました。

4. おわりに

今回の第 39 回リハ工学カンファレンスは 2025 年 8 月 8 日（金）～ 8 月 10 日（日）に東洋大学赤羽台キャンパスで行います。